



## 2) 基本方針

国外・道外・市外から札幌へ至る広域交通について、空港・港湾や他都市とのリンクをより一層高めるために、アクセス機能の強化を図る。

さらに、札幌駅は市民や市外からの来訪者のみならず、道外さらには国外から訪れる人々にとっても交通の要衝であることから、高齢者などの移動制約者や地理に不案内な人への対応はもちろんのこと、国際的な観点からも様々な機能向上を図る。

以上を踏まえ、国際色豊かで多様な人々が行き交う札幌駅交流拠点における交通結節点の形成方針を下記のように整理する。

- ① 空港・港湾・他都市との広域的なアクセス機能の強化
- ② 分かりやすい回遊ネットワーク・サイン・情報の提供
- ③ 移動の抵抗感を軽減し、利便性の高い交通サービスの提供
- ④ 機能的な交通施設配置
- ⑤ 立体的な歩行者動線の提供

## 3) 具体的な取り組みイメージ

### ① 空港・港湾・他都市との広域的なアクセス機能の強化

(中長期的な取り組み)

- ・道外、国外との窓口となる新千歳空港との連携強化を目指し、**高速ネットワークとのダイレクトアクセス機能の強化**を図る。ただし、広域的な交通を受け持つ高速ネットワークの考え方については、札幌駅周辺のみならず道央都市圏の核となる札幌都心部全体の観点からそのあり方、整備方針を検討していくことが必要である。
- ・地上部を走行し道内外とアクセスする大量輸送機関として、**新幹線によるアクセス強化**も重要であり、四季を通じて安定的な交通ネットワークを提供するためには、新幹線による冬期間における信頼性がなにより重要である。このため、今後、新幹線の整備時期、規模などが明らかとなった場合にも柔軟に対応できる施設計画としていく。

### ② 分かりやすいサイン等の整備・情報の提供

(短期的な取り組み)

- ・外国語表記、ユニバーサルなサイン表記などにより、誰もが理解でき、安心して移動できるサイン等の整備および情報の提供を行う。

### ③ 移動の抵抗感の軽減、利便性の高い交通サービスの提供

#### (短期的な取り組み)

- ・ 駅における乗継施設のバリアフリー化を促進する。
- ・ J R、地下鉄、バス共通に利用できる I C カードの導入を図る。

#### (中長期的な取り組み)

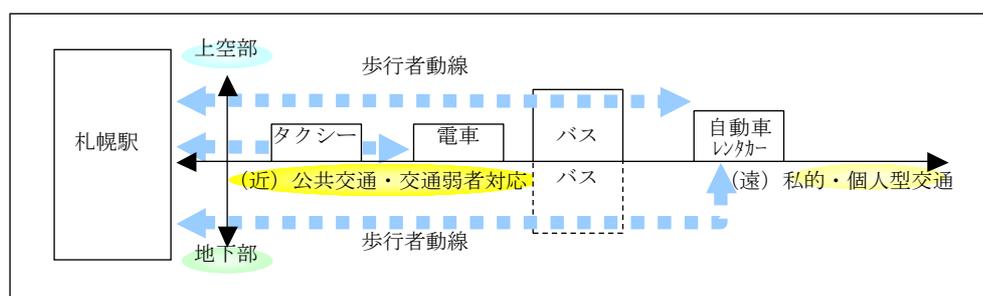
- ・ 環境首都・札幌を実現する路面電車の導入空間について検討する。
- ・ 観光支援のための観光バス待機スペースやレンタカーサービスの集約といった観光ニーズに応じた機能導入を検討する。

### ④ 機能的な交通施設配置

#### (短期的な取り組み)

- ・ 交通施設配置の基本的な考え方や方針について検討する。

例) 駅を中心として水平方向に「(近) 公共・弱者→(遠) 個人」といった配置をするとともに、各交通施設は上空部または地下部を活用することによって必要規模を確保する。



#### (中長期的な取り組み)

- ・ 上位計画での位置づけや駅利用者のニーズ・特性に応じて、交通施設配置を再検討し、高齢者や観光客などにも利用しやすいように移動サービスの公平性を確保する。

### ⑤ 立体的な歩行者動線の確保

#### (中長期的な取り組み)

- ・ 四季を通じて各種交通機能間のスムーズな連携・連結を果たすために、上空・地上・地下を立体的に活用して歩行者動線を確保する。
- ・ 地下歩行空間の整備により機能強化が図られた大通方面に加え、札幌駅北口方面や創成川以東地区方面を含めて、札幌駅から各方面への歩行者動線の機能強化を図る。

## (2) 機能導入方針

### 1) 基本認識

札幌都心の機能集積の状況を見ると、これまでは大通以北に業務機能、大通以南に商業機能という分担構造であったが、JRタワー等のオープン以降、札幌駅交流拠点における商業・業務・飲食・娯楽機能の集積が進んでいる。また、札幌駅北口から北海道大学にかけては、札幌バレーと呼ばれるなどIT関連産業の集積が進んだ経緯がある。また、ものづくりの場として札幌の発展を支えてきた創成川以東地区においては、近年人口が急増している。

札幌都心の開発動向をみると、創世I. I. I. 区の文化創造機能をはじめとする創世交流拠点や大通交流拠点（北洋大通センター、秋銀ビル建替）の整備が進行中であり、加えて南北の交流拠点を結ぶ駅前通地下歩行空間や創成川通、北3条広場の整備など都心の機能が着実に更新されつつある状況となっている。また、北4東6周辺地区や札幌総合卸センター、北8西1地区等における再開発の動きなど、札幌駅から北・東方面での開発動向がみられる。

一方、上位計画である都心まちづくり戦略の中のさっぽろ象徴戦略において、札幌駅交流拠点は、「これまでにない新たな機能の導入や、交通結節点機能の強化による道都札幌の玄関口にふさわしい拠点の形成」と位置づけられている。



## 2) 基本方針

札幌駅交流拠点においては、交通結節機能を発揮しながら、にぎわいの人波を都心へと送り出し、国際競争力を高める成長分野の産業を、大通や創成川以東地区も含めた都心全体に波及させるため、次のような方針により機能導入を図る。

- ① 高次都市機能・情報発信機能の充実
- ② 産業創造・人材育成機能の導入

## 3) 具体的な取り組みイメージ

### ① 高次都市機能・情報発信機能の充実

道都札幌の玄関口として、商業・業務等の高次都市機能や観光インフォメーションや充実を図る。

#### (短期的な取り組み)

- ・現在札幌駅交流拠点の周辺において再開発等の動きのある札幌総合卸センター、北8西1地区等において、商業・業務機能、居住機能等の都市機能の導入を図る。
- ・札幌を訪れる外国人や道内外の観光客に対して、誰もがわかりやすい観光インフォメーションなど情報発信機能の充実を図る。

### ② 産業創造・人材育成機能の導入

札幌駅交流拠点周辺の開発動向や北海道大学に近接しているという優位性を生かし、札幌および北海道全体の自立化・活性化を牽引する新たな機能として「産業創造・人材育成機能」の導入を図る。

#### (短期的な取り組み)

- ・北海道大学のシンクタンク・研究開発機能と連携した産学官による人材育成・支援機能など、「創造都市さっぽろ」を支えるIT産業の更なる充実を図る。
- ・北海道経済連合会が検討を進めている「北海道フード・クラスタータウン国際戦略総合特区(仮称)」の展開にあわせて、北海道の食に関する情報の受発信および人が数多く集まるという特性をいかしたモニター調査の実施など今後必要とされるマーケティング機能の導入を図る。

#### (中長期的な取り組み)

- ・「環境首都・札幌」の実現を念頭に置き、今後北海道で成長が期待される環境・エネルギー分野において、例えば北4東6周辺地区の再開発等と連携した環境ソリューションビジネスを展開していくための産業創造・人材育成機能の導入を図る。
- ・今後北海道で成長が期待される観光分野において、例えば定山溪等の温泉地と連携したヘルスツーリズムなど、札幌のさまざまな資源を活用した新たな観光ビジネスの企画開発を行うシンクタンク機能の導入を図る。